

第9期淡路地域ビジョン委員委嘱式及び全体会 概要

- 1 日 時 平成30年4月15日(日) 14:06~16:46
- 2 場 所 洲本総合庁舎内 3階会議室A・B
- 3 参加者 淡路地域ビジョン委員等 78名
(委員54名、専門委員3名、来賓4名、本部員9名、講師1名、本庁1名、スタッフ6名)

4 議事概要

(1) 開会

(2) 開会あいさつ

吉村 文章 淡路県民局長

(3) 来賓紹介、代表あいさつ

永田 秀一 兵庫県議会議員 (あいさつ)

浜田 知昭 ”

守本 憲弘 南あわじ市長

長濱 泰之 淡路市副市長

(4) 委嘱状交付

- ・委嘱されるビジョン委員のうち委嘱式出席者の名前を淡路県民局県民交流室未来島推進課平岩班長が読み上げ。
- ・吉村県民局長から出席委員のうち最年少の板谷航平委員へ委嘱状を交付。
- ・吉村県民局長から田中亨胤専門委員、投石文子専門委員、横山孝雄専門委員に委嘱状を交付。

(5) 21世紀兵庫長期ビジョン及び兵庫2030年の展望(仮称)の説明

- ・企画県民部ビジョン局ビジョン課岩切主幹から21世紀長期ビジョンリーフレット及び当日資料5で説明。

(6) 淡路地域ビジョンの概要説明

- ・淡路県民局県民交流室未来島推進課平岩班長から淡路地域ビジョン(改訂版・概要版リーフレット)及び当日資料4で説明。

(7) 講演「合意形成のための会議の進め方」

講師 ライフデザイン研究所FLAP 岩木 啓子 氏

・講演概要

私の仕事をひと言で言うと、参画と協働を促進するための業務です。

現場に行くこともあれば、研修でお伝えすることもあります。

「市民の参画と協働で進めていく」という言葉を良く聞くとと思いますが、どこがポイントなのか分かり辛いところもあります。その手がかりを掴んでいただこうと思い、今回のお話をさせていただきます。

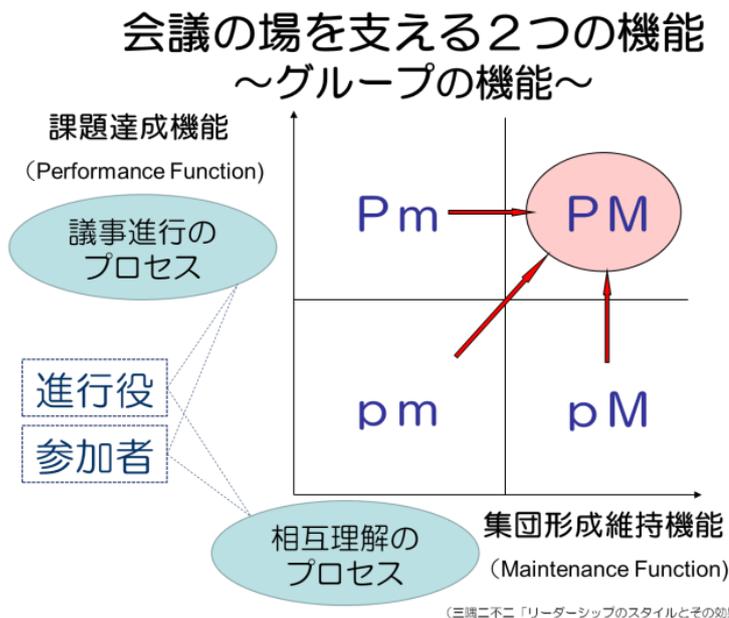
1 会議の場を支える2つの機能

グループは人の集団です。人が集まって何かする時には2つの機能が発揮されていないとうまくいかないと言われていました。

1つの機能は、課題達成機能です。課題を達成するためにどういう目標設定、役割分担、どんな活動を積み上げて行くと自分達が目指すテーマを達成できるのかということを組み立てて行く機能です。

もう1つの機能は、集団形成維持機能で、メンバー間の関係性に関わる機能です。お互いに信頼し合って尊重し合っている、良い関係性を築いていることです。2つの機能が十分に発揮されている時に、その集団が生き生きとし、良い成果を挙げることができます。

課題達成機能 (Performance Function) をP機能、集団形成維持機能 (Maintenance Function) をM機能と呼びます。P機能とM機能の発揮のされ具合を大文字と小文字で表すと4つのグループの様子が想定できます。



① pm (グラフ左下)

どちらの機能もあまり発揮されていない。誰からも意見が出ない。関係性が悪くて険悪な状況になっている。行き当たりばったり。良い結論が出るとは思えない。

② Pm (グラフ左上)

会議の道筋や段取りがきっちりしているが、関係性が良くない。意見を言い辛い。一人でしゃべりまくっている人がいる。ほんの数人だけで

決めてしまって、どんどん先に進めてしまう。

③ pM (グラフ右下)

仲は良いが、段取りをほとんど考えていない。何の為にあつまっているか分からない。

足りない方の機能を補充しながらPM (グラフ右上) に近づけていくことが必要です。両方の機能が十分に発揮されることで目指すべき良いグループになっていきます。

P機能は議事進行のプロセスです。会議の道筋を考えましょうということ。M機能は相互理解のプロセスです。みんなでやっているのだからお互いの考えていることを分かり合う、共感する、納得することを進めていくことです。

会議の間では進行役と参加者がいます。進行役は、議事進行が積み上がるように、また、お互いが理解していくようにすることが役割です。参加者も2つの機能に責任を持つ必要があります。誰かが意見を言った時に頭ごなしに否定しないようにする。人の話を聞くようにする。時間配分を考えるなどです。参加者一人一人が2つの機能を十分に発揮させようと思った時に生産的な良い会議ができあがります。

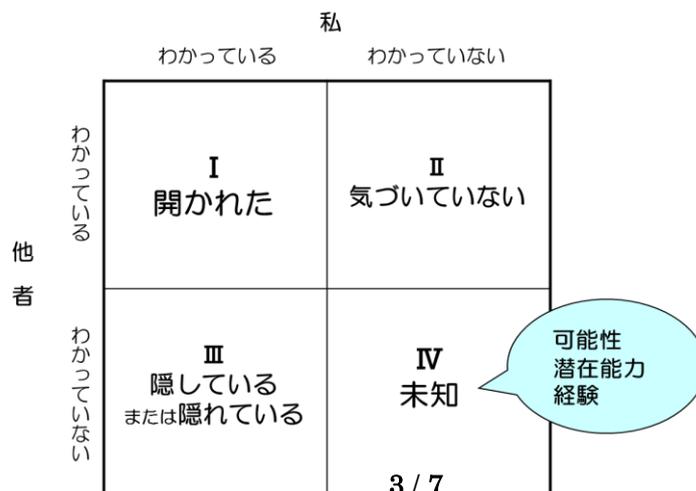
2 ひらかれた関係性 (M機能) <ジョハリの窓>

良い関係性をつくるためにはどうしたら良いかについて、ジョハリの窓の話がヒントを与えてくれます。

4つの図は、心の4つの窓のお話です。人と人が関わった時に、心の中には4つの窓ができると言われています。

ジョハリの窓とは、自己分析に役立つ手法の一つです。ジョハリの窓では、自分を①自分にも他人にも分かっている「開かれた窓」、②自分は分かっているが他人は分かっている「気づいていない窓」、③自分は分かっているが他人は分かっている「隠している (隠れている) 窓」、④自分も他人も分かっている「未知の窓」の4つの領域に分けて分析します。

ひらかれた関係性 ～ジョハリの窓 (心の4つの窓)～



① 開かれた窓

自分の分かっている領域と他人の分かっている領域が一致している領域です。自分の考えていることが他人にも分かってもらえているため、円滑なコミュニケーションが取りやすくなります。

② 気づいていない窓

自分が分かっている領域を他人が分かっている領域です。他人から自分の意外な評価を聞いたことはありませんか。自分では当たり前と思って見逃すようなことも他人からすると、長所に見えたり短所に見えたりします。

③ 隠している（隠れている）窓

自分は分かっているが他人には分かっている領域です。他人が自分の想いや意図を分かっていると、コミュニケーションを十分にすることができません。

④ 未知の窓

自分も他人も分かっている領域が一致している領域です。実は宝の山が埋まっています。これまで誰も意識したことのない領域ですので、この領域に気づくと新たな才能を開花させる可能性があります。

大事なのはここからです。グループを組んで話し合いをしようと思った時に、良い関係性をつくるためには窓がどういう状況になっていることが必要でしょうか。この窓は、相手との関係性によって変化し続けている性質のものです。開かれた窓が開いている時に、安心して生き生きと関わることができる。今日のように初対面の時は、窓は縮こまっている状態です。良い話し合いにするためには、開かれた窓を大きくするしかありません。

<開かれた窓を広げる>

自分と他人とのコミュニケーションを深めるためには①開かれた窓の領域を広くすることが重要です。広げ方としては、「Ⅰ自己開示」と「Ⅱフィードバック」の2つです。

I 自己開示

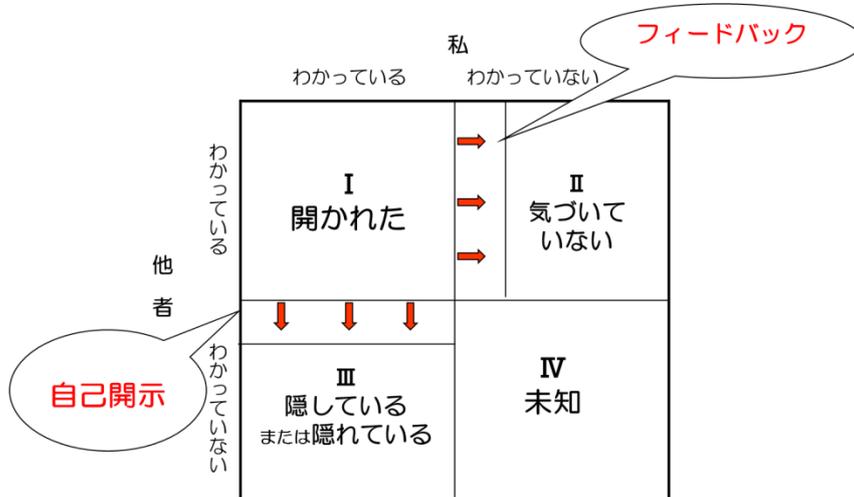
自己開示は自分が分かっていることを他人にも分かってもらうことです。自分はこういうことを考えていて、今後こういうことをしたいということを他人に伝えることにより、開かれた窓の領域を広くすることができます。他人が自分のことを分かってくれるのを期待するのではなく、自ら積極的に情報開示し、分かってもらう機会を提供することが大事です。

II フィードバック

フィードバックは、自分が分かっていたことを他人から気付かせてもらうことです。褒めてもらうこともあるかもしれませんが、他人からすると改善してほしい点を指摘してもらうこともあるでしょう。指摘され

ることは耳が痛いことかもしれませんが、自分が分かっていたいなかったことを気付かせてくれる貴重な情報ですので、真摯に受け止めましょう。

ジョハリの窓（心の4つの窓）

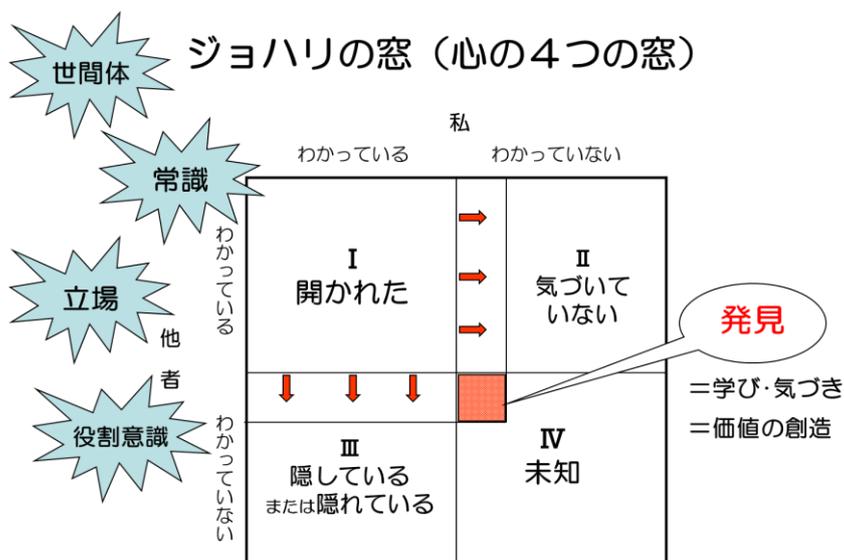


III 気付き

気付きは、自己開示とフィードバックの結果、当初は未知の窓であった領域が開かれた窓となり、新たな自分を発見することです。発見とは学びであり気付きです。新たな価値の創造であるといわれています。どういうことか自分と他人でコミュニケーションを深めることで、自分自身が成長できるようになります。ビジョン委員会で仲間と共に活動していく一番の良さはここにあると思います。性別や年齢、職業、これまでの経験がバラバラの人が集まってやることの一番の価値はここにあります。私が思ってもみなかった発想方法、私が考えもつかなかったアイデアがお互いの刺激の中で生まれてくる可能性がある。そういうものを生み出す発見、それが出てくるような話し合いの場を是非持ってほしい。そのためには、自分の思っていることを率直にどんどん出していく。相手の言うことを素直に受け入れていく。そのことによって自分自身が変わっていくことを恐れなくてください。

窓枠が広がっていくことが大事だと思っておりますが、反対に縮める方向に働く力も世間に充ち満ちています。世間体、常識、立場、役割意識などは、大人だと有って当たり前です。有りすぎると自分を縛ることになります。年を重ねるほど、私とは何者かはっきりしてきます。それ自体はいいことですが、男だから、女だから、前期からやっている、新規だから、年が上だから等、行き過ぎると弾力性を失います。自分自身がこういうものに捕らわれ過ぎていないかチェックしてみてください。

新規で関わるからと言って遠慮しないでください。新規だから見えるものがあります。枠をそこで作らずに、一歩お互いに踏み出してくことによって良い関係性を築いていくことができます。



3 議事進行の組み立て（P機能）＜問題解決の流れ＞

地域ビジョン委員会として地域ビジョンを考えて活動を実践していくというのは、地域にある問題解決の流れに他ならないと思います。問題解決の流れに沿って議事進行を組み立てて行くと上手くいくでしょう。

理想があって現実があります。この2つが完全に重なっているならば、何もする事はありませんが、ギャップがあるのが普通です。理想と現実を摺り合わせていくと、ギャップのところに問題が発見できるはずで

理想というのは最終的に到達したい目的という言い方もできます。現状分析をすることによって、現状の把握をすることができます。

問題を解決するために、問題の裏側にどんな原因が潜んでいるか掘り下げていただくと良いと思います。原因が見えたら目標を設定することができます。その目標を達成するための具体的な解決策を作っていくということ、この具体的な解決策が地域ビジョン委員会での活動の中身ということになっていくと思います。

皆さんが活動を何にするのかという話し合いをやっていくと思いますが、この流れを意識しながら話をしていただければと思います。意見交換の中で大事にして欲しいことが問題意識です。問題意識を丁寧に出し合うと、みんなが何を考えているのかということが共有できます。前期から継続委員の方は、これまでやってきたものの発展型をやりたいと思っていられると思いますが、一歩立ち戻って、これってこういう問題意識でやっているいうところをもう一度自分の言葉で語ってみるということから始めていただくことによって、新規の方と意識の摺り合わせが可能になってきます。

(8) オリエンテーション

- ・淡路県民局県民交流室未来島推進課平岩班長から意見交換の進め方に

ついて説明。

(9) 意見交換Ⅰ・Ⅱ

- ・「教育・文化」、「防災」、「健康・福祉」、「まちづくり・地域づくり」、「農林水産」、「商工・観光」、「エネルギー・自然」、の7つの分野に分かれて意見交換（40分×2回）を実施。
- ・自己紹介の後、ビジョン委員として活動してみたい事等について意見交換。[詳細は別紙参照]

(10) 委員長選出

- ・委員からの推薦により、小田美根子委員を委員長に選出。

(11) 就任あいさつ

小田美根子委員長

(12) 事務連絡

- ・今後の委員会の進め方について事務局から説明。

(13) 閉会